
平成20年1月期中間決算発表 ご説明資料

(平成19年2月1日～7月31日)

平成19年9月21日

丸善株式会社

目次

1. 当中間期業績 ~ 損益ハイライト ~ P. 2
2. 当中間期業績 ~ セグメント別概況 ~ P. 3
3. 当中間期業績 ~ 貸借対照表ハイライト ~ P. 4
4. その他 P. 5
 - 当中間期のトピックス
 - 当期通期の業績予想
5. 新・経営方針 P. 6 ~

出席者

代表取締役社長	小城 武彦
常務取締役 管理本部長	月本 和是
取締役 経営企画本部長	土方 裕之

1. 当中間期業績 ~ 損益ハイライト ~

売上高は対前年比102.7%と微増となったものの、各事業の構造改革推進のための先行費用の支出により、経常利益は対前年242百万円減の615百万円（対前年比71.8%）にとどまりました

損益計算書（当中間期：平成19年2月1日～7月31日）

（単位：百万円）

連 結	当中間期	前年同期	差額	対前年比
売上高	54,256	52,811	1,445	102.7%
営業利益	568	832	264	68.3%
経常利益	615	857	242	71.8%
特別利益	867	270	597	-
特別損失	116	126	10	-
中間純利益	1,263	971	292	130.1%

中間純利益につきましては、特別利益計上により対前年130.1%となりました。

2. 当中間期業績 ~セグメント別概況~

当中間期：平成19年2月1日～7月31日

(単位;百万円)

連 結	売 上 高			営 業 利 益		
	当期	前期	対前比	当期	前期	対前比
教育・学術事業	31,427	30,226	104.0%	1,052	1,102	95.5%
店舗事業	18,435	18,057	102.1%	68	155	-
出版事業	1,108	1,384	80.1%	142	240	59.2%
店舗内装事業 及びその他事業	3,284	3,143	104.5%	360	345	104.3%
本社費	-	-	-	918	700	-
合 計	54,256	52,811	102.7%	568	832	68.3%

<ポイント>

- **教育・学術事業**
 - ソリューションシフトが進展
 - システム開発等の先行費用を計上
- **店舗事業**
 - アパレル事業を売却
 - 丸の内本店の好調により、日本橋店等の出店コストを吸収
- **出版事業**
 - 企画の精選
- **店舗内装事業及びその他事業**
 - 順調
- **本社費**
 - 不適切会計に伴う対策費用
 - 経営理念体系構築費用

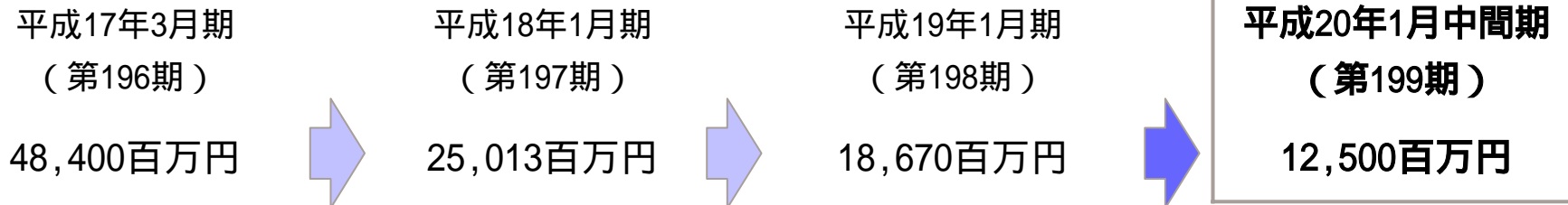
【注】

当社のセグメントにつきましては、前連結会計年度上期まで「書籍及び文化雑貨事業部門」「設備建築並びに内装業部門」及び「その他事業部門」に区分しておりましたが、前連結会計年度下期より「教育・学術事業」「店舗事業」「出版事業」及び「店舗内装事業及びその他事業」の4区分に変更いたしました。

3. 当中間期業績 ~ 貸借対照表ハイライト ~

有利子負債につきましては、大幅な圧縮を行っており、当中間期末においては、3期前と比較して約1/4まで削減しております。また、自己資本比率についても、22.5%まで回復しており、財務体質はかなり改善しております

有利子負債の推移（連結）



自己資本比率の向上



4. その他

当中間期のトピックス

- 4月：社長交代、新経営陣による新体制スタート
- 5月：プリNSTON債に関する訴訟の和解に伴う特別利益計上（836百万円）
優先株式（第一回E種 / 7,410株 / 約1,042百万円）のコールオプション実施、消却
- 6月：Amazon.co.jpとの共同ブランドサイト「丸善オンラインストア」開設を発表
(8/28サイトオープン)
- 7月：大日本印刷株式会社との業務・資本提携に関する基本合意締結（8/3最終合意締結）

当期通期の業績予想

本年9月18日付『平成20年1月期中間期の業績予想の修正に関するお知らせ』で発表いたしましたとおり、当社グループの主要市場である書籍小売市場において引き続き厳しい環境が予想されることやその他市場動向も踏まえ、連結・個別ともに本年6月12日に公表いたしました通期業績予想のとおりでございます。

5. 新・経営方針

1. 経営理念主導

会社経営の「背骨」である経営理念を基軸にした経営を行ってまいります。

当社では全従業員参画のもと、「価値観」、「ミッション」、「行動規範」及び「ビジョン」から構成される新しい経営理念を平成19年9月1日に制定いたしました。

今後はこの経営理念に沿った経営を推進することで、当社の企業価値の向上を図ります。

新・経営理念体系 (<http://www.maruzen.co.jp/corp/philosophy/index.html>)

2. 「従業員」第一主義

「従業員」第一主義に基づき会社を運営してまいります。

この理由は、従業員が安心して顧客に向き合いサービスを提供できるように環境を整え、人材の力を最大限発揮させることが、結果的に顧客満足を高め、事業収益の拡大と企業価値の最大化に結び付くと認識するためです。但し、従業員に“甘え”を生じさせぬよう、経営が大切にす「従業員」の条件を示し、甘えを排除する仕組みを整えた上でこれを進めます。

3. 知的資本マネジメントの導入

知的資本経営の手法を導入いたします。

知的資本とは、数字で表現することが困難な、目に見えにくい会社の経営資源のことで、具体的には人材力、顧客からの信用、ブランド力、業務プロセスの革新力など、長期的に事業価値を増大させていくために重要な経営資源のことを指します。

今後これらを可能な限り可視化し、経営の中核に据え、従前の戦略もこの知的資本経営の手法に基づき見直しを図ってまいります。

新中期事業計画策定中
12月中旬を目処に発表予定

5. 新・経営方針

4. 徹底した現場主義

顧客との接点である現場を何より大切にし、徹底した現場主義の経営を行ってまいります。
小売業を主体とする当社では、すべての企業価値が顧客との接点である現場に集約されます。よって、その顧客との最も重要な接点である現場を起点として経営を行い、経営陣、本社部門はすべてその現場への支援機能として位置付け、経営を進めてまいります。

5. 正直で透明な企業運営

前年度末に発生しました不適切会計処理について、当社ではこれを真摯に反省するとともに、今後このような問題を二度と発生させない企業体質とするため、全社に正直で透明な企業運営を徹底してまいります。
経営陣が“正直”“透明”な行動を率先して行うことはもちろん、従業員に対しても経営陣自らがその重要性を説き、正直で透明な行動を何よりも重んじる企業文化の醸成と、内部通報制度の整備など体制の整備に努めます。

【当資料の内容に関するお問合せ先】

問合せ先責任者： 常務取締役管理本部長 月本 和 是

電話番号 03 - 3272 - 7011